

# 教職員養成・育成だより 第46号



これまでの「大学連携だより」を、第41号から「教職員養成・育成だより」として名称変更し、大学連携の情報に加え、教職員の研修等の様子についてもお伝えしています。

令和3年2月15日発行

横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

## 「横浜市におけるGIGAスクール構想に向けて」説明会開催

1月14日（木）に、「横浜市におけるGIGAスクール構想に向けて」の説明会を西公会堂及びZoom配信にて実施しました。本説明会は、初めての集合・オンラインのハイブリッドな研修スタイルでの実施となり、西公会堂には100名以上の管理職及びICTの実務担当者の方々が集い、Zoom配信では、400人を超える教職員の方々が視聴しました。

説明会への参加方法は、①早めに会場に入りeラーニングを視聴する方法と、②事前に学校でeラーニングを視聴し、第一部から合流する方法の2通りから選択できるようにし、業務の状況に合わせて参加できる「教員基礎研修」と同様のフレキシブルな形態にしました。

第一部は、情報教育担当から、①今後のハード面、ソフト面の整備におけるスケジュール、②G suite アカウントの配付について、③情報セキュリティに関わることについての説明を行いました。

第二部は、横浜市におけるGIGAスクール構想の推進により、児童生徒が一人一台の端末を日常的に活用するようになると、横浜市の教育はどのように変わっていくのか、どのようなことを大切にしていけるべきなのかを、動画や各校種の先進的な事例をもとに発信しました。これまで以上に多様性を尊重しつつ、児童生徒を誰一人取り残すことのないよう、「個別最適な学び」と社会とつながる「協働的な学び」の実現を目指していくことを大きく宣言するとともに、情報活用能力の育成と情報モラル教育の推進、個人情報保護等の人権への配慮に関し、常に忘れず取り組んでいくことを共有することができました。

これから4月に向けて、加速度的に準備が進んでいきます。教職員育成課では、教職員の「ICT活用指導力」を向上させるために、積極的に研修等への参加を促していきます。また、研修体系を分かりやすくまとめた冊子「ICT活用指導力向上のための研修ガイド」を各校に一冊配布し、さらにその概要をまとめたリーフレット「ICT活用指導力向上のための研修navi」(右図)も作成し、4月以降に全教職員へ配付する予定です。



## ★★★後期（11～15年）中堅教員研修★★★

後期（11～15年）中堅教員研修は、第1回・第2回がeラーニング研修となり、第3回（閉講式）はZoomによるオンライン研修となりました。受講者530人を3回に分け、当日の研修をスムーズに行うために、事前に接続確認の日を設けました。それにより、各自がオンラインの接続状況やZoomの使い方を理解した上で参加したため、当日は問題なく研修を行うことができました。研修では「ブレイクアウトセッション」で、①今年度の取組と振り返り、②ミドルリーダーとしての今後の姿についてグループ協議を行いました。

グループ協議では、自校の実態やミドルリーダーとしての各自の取り組みなどについて、オンラインでも活発な協議を行っていました。最後に「5年後のありたい姿」を考えて、画面上でも共有することができました。

受講者からは「グループトークを多く設けていただき、他校の実態を知ることができ、パワーが出ました」「eラーニングとは違い、顔を見て話すことができ、とても勉強になりました」などの振り返りがありました。今後も効果的な研修になるように、内容や方法を考えていきます。

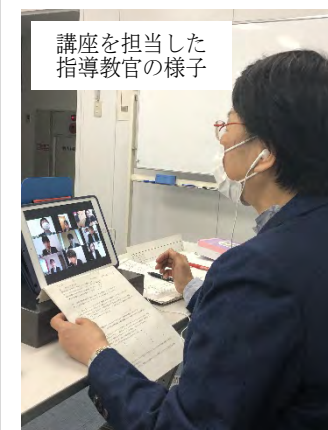


## ★★★アイ・カレッジ コーナー★★★

1月16日（土）第9回目のアイ・カレッジを、Zoomによるオンライン開催という形で実施しました。この日は、児童生徒とのよりよい人間関係を築くためのコミュニケーションの在り方について「言葉のキャッチボール」という視点で考える講座、学校事故を未然に防止するための危機管理意識を磨く講座、の2講座を午前グループ、午後グループに分かれて実施しました。



ブレイクアウトルーム 討議の様子



講座を担当した 指導教官の様子

12月20日以降、塾生とは対面で交流することができず、メール等での連絡を交わすのみだったので、画面越しに塾生の元気そうな姿を確認する場面や指導教官と久しぶりの対面場面では、画面いっぱいに笑顔が広がりました。講座の中では、活動班ごとに分かれて討議を行いました。事前課題として自分の意見をしっかり整理していた塾生も多く、途切れることなく意見交換することができました。

しばらくこういった状況は続きそうですが、この日に塾生と確認したことは「どのような状況にあっても、自分たちの学びは止めない」「今、この時だからこそ学び続けることが大切」ということです。引き続き、eラーニングやZoomでのオンラインによる開催を、状況や講座内容に応じて検討しながら、教職の素地となる資質・能力の養成を進めていきます。